

ピアレビュー委員会（第1部会）

2019年度（対象年度：2017～2018年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織

工学研究科

基準1

理念・目的

総評

0101 工学研究科では教育研究上の目的を設定している。目的は組織の特色や、育成を目指す人間像を明確に示したものと評価できる[0101a] [0101b] [0101c]。

0102 工学研究科の教育研究上の目的をホームページ、学生便覧にて適切に明示し、教職員および学生に周知し、社会に対して公表していると評価できる[0102a]。

0102 研究科(専攻)の目的や人間像のより効果的な周知方法(適切な媒体)を今後も検討することが望まれる。

長所・特色

0101 工学研究科では教育研究上の目的を設定している。目的は組織の特色や、育成を目指す人間像を明確に示したものと評価できる[0101a] [0101b] [0101c]。

0102 工学研究科の教育研究上の目的をホームページ、学生便覧にて適切に明示し、教職員および学生に周知し、社会に対して公表していると評価できる[0102a]。

留意点

*各項に留意点レベルを記入

【A】・・・緊急の改善を要する事項

【B】・・・検討を要する事項

0102 研究科(専攻)の目的や人間像のより効果的な周知方法(適切な媒体)を今後も検討することが望まれる。【B】

ピアレビュー委員会（第1部会）

2019年度（対象年度：2017～2018年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	工学研究科
--------	-------

基準2	内部質保証
-----	-------

総評	
0203	工学研究科応用化学専攻では内部質保証システムを機能させるためにアドバイザー会議を定期的開催し、学外関係者から意見を聞く外部評価を導入していることは評価できる[0203b]。 0203 応用化学専攻を除く専攻での外部評価方法は示されていない。学科会議や業績の報告は全学的に内部質保証に特化せずに例年実施している事柄なので、それらとは別に独自の質保証システム、方法の確立と実施が望まれる [0203a] [0203c]。
長所・特色	
0203	応用化学専攻では内部質保証システムを機能させるためにアドバイザー会議を定期的開催し、学外関係者から意見を聞く外部評価を導入していることは評価できる[0203b]。
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
0203	応用化学専攻を除く専攻での外部評価方法は示されていない。学科会議や業績の報告は全学的に内部質保証に特化せずに例年実施している事柄なので、それらとは別に独自の質保証システム、方法の確立と実施が望まれる [0203a] [0203c]。【B】

ピアレビュー委員会（第1部会）

2019年度（対象年度：2017～2018年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	工学研究科
--------	-------

基準4	教育課程・学習成果（1）
-----	--------------

総評	
0401	養成する人物像を明記した卒業認定・学位授与の方針（DP）を組織内で検討を重ね、学生便覧に明記し学生に周知するとともに、大学ホームページに掲載し広く社会にも公表している[0401a] [追加根拠資料：3つのポリシーTM]。
0402	教育内容、方法、評価法を明記した教育課程の編成・実施方針（CP）を組織内で検討を重ね、学生便覧に明記し学生に周知するとともに、大学ホームページに掲載し広く社会にも公表している[0401a] [追加根拠資料：3つのポリシーTM]。
0403	産業技術総合研究所と連携大学院協定を締結して最先端研究の講義を開講している[追加根拠資料：連携大学院協定書] [追加根拠資料：連携大学院開講科目一覧]。 カリキュラムを改訂し、各専門分野の教員が時代にふさわしい科目を設定し、それらの適切性を各専攻会議および専攻主任会で審議している。また、系統的に履修できるようにするための履修モデルの検討や履修マップの作成を計画している専攻もある[0403a]。
長所・特色	
0403	産業技術総合研究所と連携大学院協定を締結して最先端研究の講義を開講している[追加根拠資料：連携大学院協定書] [追加根拠資料：連携大学院開講科目一覧]。 カリキュラムを改訂し、時代にふさわしい科目が新設されている[0403a]。
留意点	
	*各項に留意点レベルを記入 【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
0403	系統的に履修できるような科目配置に配慮したカリキュラムマップの作成が必要である[0403a]（自己点検・評価シートでは項目0406に記載されていたが、0403の誤りであることがヒアリング時に確認された）。【B】

ピアレビュー委員会（第1部会）

2019年度（対象年度：2017～2018年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	工学研究科
--------	-------

基準4	教育課程・学習成果（2）
-----	--------------

総評

0404 シラバスに必要な内容を組み込むとともに、シラバスの内容を的確なものに改善していくため、全教員によるシラバスのピアレビューが行われている点は評価できるが[0404b]、その一方で、シラバスと実際の授業との整合性を組織的にチェックする方法の導入が課題となっている。

また、入学直後の学修計画の作成を義務化し、院生の主体的な取り組みが行われるような措置が講じられており、改善がなされている[0404d]。

0405 工学研究科・工学部交流会は、大学院生が学部の学生に自分の研究内容を分かり易く説明するトレーニングの良い機会である[0405f（自己点検・評価シートではhだが、fの誤り）]。社会に出てからも、専門家ではない聞き手に分かり易く説明する技能はコミュニケーション能力の1つとして重要と考えられる。

長所・特色

0404 全教員によりシラバスのピアレビューが行われている点は評価できる[0404b]。

0405 工学研究科・工学部交流会を実施している点は評価できる（自己点検・評価シートでは項目0405に記載されていたが、0404の誤りであることがヒアリング時に確認された）[0405f]。

留意点

- *各項に留意点レベルを記入
- 【A】・・・緊急の改善を要する事項
- 【B】・・・検討を要する事項

0404 シラバスと実際の講義内容との整合性を確保するための方策の検討が必要である。【B】

ピアレビュー委員会（第1部会）

2019年度（対象年度：2017～2018年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	工学研究科
--------	-------

基準4	教育課程・学習成果(3)
-----	--------------

総評

0406 修士課程に2回のTOEIC受験を通して学生の英語運用能力を確認して、英語能力向上を図っている専攻がある[追加根拠資料：TOEIC]。
 0406 研究科全体としては、学習成果の把握・評価のための体制が整っていない。
 0407 「教育活動重点目標・自己点検シート」に基づき、教員ごとの自己点検・評価は行っているが、組織としての点検体制には改善の余地が残されている[0407a]。

長所・特色

0406 修士課程に2回のTOEIC受験を通して学生の英語運用能力を確認している専攻がある[追加根拠資料：TOEIC]。

留意点

*各項に留意点レベルを記入 【A】・・・緊急の改善を要する事項
 【B】・・・検討を要する事項

0406 研究科全体としては、学習成果の把握・評価のための体制が整っていないため、研究科として組織的に把握・評価するための方法の導入検討が望まれる。【B】
 0407 教育課程及びその内容・方法の適切性について、各専攻における定期的な点検方法の検討が望まれる。【B】

ピアレビュー委員会（第1部会）

2019年度（対象年度：2017～2018年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	工学研究科
--------	-------

基準5	学生の受け入れ
-----	---------

総評	
0501	DP、CPを踏まえた入学者受け入れ方針（AP）を適切に設定し、大学ホームページで公表しているが、入学希望者に求める能力水準までは定めていない[0501a]。
0502	学生募集および入学者選抜の制度については、入試要項を定め、工学研究科専攻主任会、全学の入学者選抜会議で、透明かつ公正な選抜が実施されている[0502a][0502b]。ただし、APと入試形態の整合性、CPと学生募集方法、入学者選抜方法の関連性は必ずしも明確ではない。 海外の学術交流協定機関からの入学希望者に対して事前審査制度を設けている（ヒアリング時に確認済み）。また、秋入学制度を整備しているため、留学生や社会人受け入れに有効と考えられる[0502a]。
0504	学生募集および入学者選抜に関する検証、改善に取り組んでおり、不十分な点については今後の改善策がヒアリングにおいて示された。
長所・特色	
0502	秋入学制度を整備しているため、留学生や社会人受け入れに有効と考えられる[0502a]。 海外の学術交流協定機関からの入学希望者に対して事前審査制度を設けている[ヒアリング時に確認済み]。
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	
	【A】・・・緊急の改善を要する事項
	【B】・・・検討を要する事項
0501	入学者希望者に求める能力水準についての検討が望まれる[0501a]。【B】
0502	APと入試形態との整合性、CPと学生募集方法、入学者選抜方法の関連性を明確化するための検討が望まれる。【B】

ピアレビュー委員会（第1部会）

2019年度（対象年度：2017～2018年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	工学研究科
--------	-------

基準6	教員・教員組織
-----	---------

総評

0602 教員組織の編成に関して、人事審議会の資格審査を通して適切な専任教員数の確保、学部の教育理念・目的を実現できるための教員組織に関することが明確にされている[0602a]。

0603 大学院担当資格に関して、評価基準を研究し、教育実績等をポイント化している点は、明確にされている[工学部追加根拠資料：昇格基準]。

0604 FD活動に関して、点検・評価結果に基づいた改善・向上の取り組みの不十分な点が明確ではない[0604a]。

0605 教員組織の適切性について、11回の大学院工学研究科委員会での自己点検・評価についての記述は皆無であった。さらに主任会では、自己点検・評価についての報告、説明は1回のみ行われた。これらの結果から体制が十分でないことがうかがえる[0605a] [0605b]。

長所・特色

0603 大学院担当資格に関する評価基準を研究し、教育実績等をポイント化している点は高く評価できる[工学部追加根拠資料：昇格基準]。

留意点

*各項に留意点レベルを記入

【A】・・・緊急の改善を要する事項

【B】・・・検討を要する事項

0605 教員組織の適切性について、11回の大学院工学研究科委員会において、教員組織の適切性に関して、自己点検・評価についての記述は皆無であった。さらに主任会では、自己点検・評価についての報告、説明は1回のみ行われた。これらの結果から、教員組織の自己点検について、十分でないことがうかがえるので、今後の改善が望まれる[0605a] [0605b]。【B】

ピアレビュー委員会（第1部会）

2019年度（対象年度：2017～2018年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	工学研究科
--------	-------

基準7	学生支援
-----	------

総評	
<p>0702 修学において、成績不振、留年・休学者、退学希望の学生の状況把握と対応や指導は、教務支援課や学生課と連携した適切な取り組みがなされている[0702b] [0702c] [0702d] [0702e]。補修・補充・正課外教育、留学生や障がいのある学生に対する学習支援においては、個々の教員が対応しており、学科としての体制までは整っていない。</p> <p>0702 学生の相談に応じる体制の整備は整っている。生活支援面においては奨学金の推薦書作成支援はなされている。今後は奨学金取得につながることを期待したい。</p> <p>0702 学生の進路に関しては、高い就職内定率で成果が確認されており、評価に値する[0702g] [0702h] [0702i]。</p> <p>0702 インターンシップに関しては、情報の周知がうかがえる。さらに海外の大学でインターンシップがなされている点は充分評価できる[0702j]。</p> <p>0702 学生の要望に対応した学生支援の適切な実施に関しては、学修ポートフォリオを使用し適切な支援を実施しているが、支援強化につなげるさらなる展望が望まれる。</p>	
長所・特色	
<p>0702 大学院生の修学に伴う支援として、学科・専攻独自の体制が適切に行われ、修学状況の把握が確実である[0702b] [0702d]。</p> <p>海外研究指導委託の実施は、学生をインターンシップでタイに送りだしている点から評価に値する[0702j]。</p>	
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	<p>【A】・・・緊急の改善を要する事項</p> <p>【B】・・・検討を要する事項</p>
<p>0702 担当教員のみが担う支援ではなく、各専攻における組織的な支援体制について不十分な点が認められるので、改善が望まれる。【B】</p>	

ピアレビュー委員会（第1部会）

2019年度（対象年度：2017～2018年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織

工学研究科

基準8

教育研究等環境

総評

0802 工学研究科では教育課程の特徴、学生数、教育方法に応じた施設・設備の充実が図られており、それらのなかでも工学部・工学研究科共通の施設としてもものづくり工房を実現させていることは評価できる[0802a] [0802b] [0802c]。

0806 教育研究等環境の適切性について定期的に自己点検・評価した実績やそれらをもとにした改善・向上に向けた取り組みの状況は評価シートからは読み取ることができない。

長所・特色

0802 工学研究科では教育課程の特徴、学生数、教育方法に応じた施設・設備の充実が図られており、それらのなかでも工学部・工学研究科共通の施設としてもものづくり工房を実現させていることは評価できる[0802a] [0802b] [0802c]。

留意点

*各項に留意点レベルを記入 【A】・・・緊急の改善を要する事項
【B】・・・検討を要する事項

0806 教育研究等環境の適切性について定期的に自己点検・評価した実績やそれらをもとにした改善・向上に向けた取り組みの状況は評価シートからは読み取ることができない。このため、引き続き工学部主任会で検討し、現状の問題点を把握することが望まれる。【B】

ピアレビュー委員会（第1部会）

2019年度（対象年度：2017～2018年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織

工学研究科

基準9

社会連携・社会貢献

総評

0902 工学研究科では積極的に社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しており、また海外の大学も対象を含めて様々な事業・イベント等を通じて教育研究成果を適切に社会に還元していることは高く評価できる。これらの取り組みに教員のみならず学生も参加していることも評価できる [0902b] [0902c] [0902d] [0902e] [0902f] [0902g] [0902h] [0902i] [0902j] [0902k]。

0902 活発な活動状況に見えるが、各教員の自主的努力に依存していること、また参加教員に偏りがあることが指摘されている。

長所・特色

0902 工学研究科では積極的に社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しており、また海外の大学も対象を含めて様々な事業・イベント等を通じて教育研究成果を適切に社会に還元していることは高く評価できる。これらの取り組みに教員のみならず学生も参加していることも評価できる [0902b] [0902c] [0902d] [0902e] [0902f] [0902g] [0902h] [0902i] [0902j] [0902k]。

留意点

*各項に留意点レベルを記入

【A】・・・緊急の改善を要する事項

【B】・・・検討を要する事項

0902 活発な活動状況に見えるが、各教員の自主的努力に依存していること、また参加教員に偏りがあることが指摘されており、今後、教員の参加状況について定量的な調査を行うことが望まれる。【B】

ピアレビュー委員会（第1部会）

2019年度（対象年度：2017～2018年度）ピアレビュー報告書

評価対象組織	工学研究科
--------	-------

基準 11	大学独自の評価項目
-------	-----------

総評	
1120 研究科専攻主任会が定例で開催され、それに伴う議事録は表を掲載し短簡で明確な議事録が作成されている。それらの会議資料はデジタル化し会議後に配信している[1120a]。	
長所・特色	
1120 研究科委員会における会議資料は紙の節減を図るために、デジタル化した資料を会議後に配信している[1120a]。	
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項